

いわなみ ゆうこ はやし まゆみ  
岩波 雄子さん (株) 野田組 ■ 林 真弓さん 萩原建設工業(株)

岩波さんは、1985年生まれ、林さんは、1988年生まれで、共に帯広市出身。2人とも大学卒業後、建設会社に入社し、管内でも数少ない建設工事の現場代理人として活躍している。また、十勝建設産業の未来を考える会で、女性技術者の入職促進の活動を行っている。



(左)林さん(右)岩波さん



林さん

岩波さん

女性技術者としての活躍が認められ、2019年5月に十勝総合振興局長から「とかち未来チャレンジ賞」を受賞しました。

## 地図に残るスケールの大きな仕事がしたい！

### きっかけ

岩波さんは、地元の工業高校を卒業後、親身になって指導してくれた高校時代の恩師に憧れ、教員を目指して東京の大学で土木を専攻しました。しかし、家族や多くの友人がいる十勝で就職するため、大学で学んだ知識を生かせる建設業界に飛び込みました。

一方、中学校のときから「ものづくり」がしたいと考えていた林さんは、大学4年生のとき、インターンシップでトンネルの工事現場を見学して、スケールの大きな仕事に感銘を受け、技術系の仕事に就くことに決めました。十勝の過ごしやすい環境、知人が多い土地だったことも、今の会社を選んだ理由のひとつになったそうです。

### 苦労

土木や建築などを学んだ学生時代も周りは男性ばかりだったので男性の多い建設会社に就職することには、それほど抵抗がなかったそうです。会社に入ったばかりの頃は「上司や同僚が、女性技術者に対して、どのように対応すべきか悩んだのではないかと話してくれました。

お二人とも、男性との体力的な差も自分なりのやり方を探しながら、「自分ができることをやるしかない」という気持ちで日々頑張っています。ただ、子育てをしている岩波さんは、保育園の送迎の時間を気にしながら仕事をしなければならないので、家族のサポートに助けられているそうです。

### 満足度

林さんは、帯広広尾自動車道の建設工事や平成28年の台風被害の復旧工事にも携わりました。昨年からは現場代理人として現場に出っていますが、「地図に残る仕事がしくてこの職業を選んだので、目標に向かって着実に一步一步進んでいる」という実感があるそうです。また、お二人とも現場の責任者として、工事に関わる皆さんが怪我なく安全に働いて、無事工事を終え、評価されたときは、「よかった」と一安心するそうです。仕事以外では、家族と旅行したり、趣味で始めたカメラを片手に出かけたりと、お二人ともオンとオフの切り替えを大切に、仕事と生活を上手に両立されているようです。

### これから

林さんは、現場の知識はもちろん、GPSやドローンを使った測量など技術も進化しているので、日々勉強しながら、「早く一人前になって後輩の手本となるような技術者になりたい」。将来、家族に自分が携わった現場を見せて「これは私が作ったんだよ。」と自慢したいと笑顔で語ってくれました。

一方、岩波さんは、これからも経験を積んで、どんな現場でも対応できる技術者を目指しているそうです。また、最近は、出産育児の支援制度など、働きやすい環境を整える企業も増えてきたので、「やってみたい」と思っている女性は、是非、建設業界に飛び込んでもらいたいと語っていました。

建設業界に入職する女性も徐々に増えていますので、尻込みせずに飛び込んでください。やる気さえあれば大丈夫です。女性同士の交流会など、不安や悩みを共有できる場もあります。人と違う仕事をしてみたい方は、「現場」の仕事も選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか！